



富山市立 大広田小学校

校長：牧野 信子 先生

指導教諭：西野 妙行 先生
古西 義嗣 先生
花森 佳恵 先生

発表児童：4年1・2・3組 9名

発表テーマ

大広田の水のすがたを探ろう

大広田校区を流れる3か所の水を比べると、見た目だけでもずいぶん違うのでびっくりしました。水が流れている現地を見学してから、一人一人がもった課題について、自分で考えた方法で調べてきました。

「生き物と水の関係」「水のつながり」「水のよごれやごみ」について調べていくうちに、分かったこと・気がついたこと等を発表します。



西野 妙行 先生より

「ただの溝・ただの川」を見直すことで、 水のみらいが少し明るくなりますように

大広田小学校区には、子供たちが憩えるような川などの水環境はありません。そのため、子供たちが毎日の登校時に見ているものの、ほとんど意識したことがない排水路・用水路を研究の対象としました。身近な水を対象としたことにより、子供たちは繰り返し実地学習ができたので、水の汚れ・ごみ等の問題を切実に感じ、自らの生活とのかかわりについて考えることができました。

しかし、研究を始めたのが9月だったため、用水路と農業の関連について考えを深めることができなかつたことが反省点です。

今後、子供たちが身近な水環境に対する接し方を考え、生活の中でそれを実践できるよう見守りたいと思います。



富山市立大広田小学校は、明治6年に「広運小学校」として創校した歴史ある学校です。「心身ともに健康で、創造性に富む子供」の育成を学校教育目標として、510人の児童が学んでいます。

校区は、富山市北部の神通川右岸に位置し、北は富山湾に面し、東にはJR北陸本線が通っています。また、大きな工場・エコタウン・新旧の住宅街・田畑・大型店などが、バランスよく混在している地域です。



▲あまり気にしたことがなかった溝や用水路などの水を調べることにしました。



▲たとえ汚れていても、どんな水の中にも生き物たちがいました。

考えたこと 感じたこと

身近な水に対して、 考えること、 出来ること

島野 有以(4年生)

この研究をする前は、通学路や家の近くを流れる水に全然見向きもしませんでした。でも、調べてみると、どんな所を流れていてもどんなに小さな流れでも、村川や富山湾まで流れていくことが分かりました。あんな遠い所へ行くなんて、とてもすごいと思いました。

家の前の水をよごすと、海もよごすことになるので、気をつけたいです。

矢舗 遙(4年生)

わたしは、この研究を始める前は、溝や用水路に大切な役わりがあるなんて知りませんでした。でも、今は、水をよごさないように心がけるだけでなく、水環境を守るためにできることを考え、友だちと相談し合っ、いろいろやっていきたいなあ、と思っています。



学習テーマの設定

身近な水を調べる

私たちは2年生のときに校区の生き物を調べ、3年生のときはエコタウンや大きな工場の環境を守る取り組みを調べてきました。そして4年生になり身近な水について調べることにしました。

大広田の 水のすがたを さぐる

発表者
富山市立大広田小学校4年生



3つの観察ポイント

私たちの校区は、住宅街や田畑、工場などがあります。そのなかで3か所を選び、それぞれの場所の水を通して“大広田の水のすがた”をさぐることにしました。

学習の展開

調べたいことはなに？

油が浮いている水、草やコケが多く緑色の水、いきおいよく流れる無色の水と、3か所の水の特長を話し合い、みんなが調べたいポイントをまとめました。



生き物と水のよごれ



生き物と水の意外な関係

汚れた水にも生き物がいたり、きれいに見える水なのに生き物が少なかったり、不思議な点に気づきました。2〜3年前まで見かけたというカニは見つからず、もう住めなくなったようで残念でした。

つながり海へそそぐ水

3か所の水はどこから来て、どこへ流れて行くのかとどると、分かれたり、流れ込んできたり、予想以上にたくさん水のながりがつなっていました。そしてすべては富山湾へそそぐのです。



水のよごれやごみ



たくさんのゴミに驚く

どの場所でも、弁当やお菓子、タバコなどのゴミがたくさんあり、通りかかった人も捨てていくようです。ゴミ捨て場になるなら溝をなくせばいいとも思いましたが、溝には大切な役割もあります。

やれることから取り組む

雨水を集めて川へ、海へと流すためにも溝や用水路はなくてはなりません。身近な溝を汚せば、富山湾が汚れるのです。私たちはポスターなどでゴミ捨て防止を呼びかけ、水を汚さないよう心がけていきたいです。



これからの大広田校区を流れる水は、どうなるのでしょうか？
私たちにできることは・・・